

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード		1-2-3			事業名	児童会館における中・高校生の利用促進
担当	子ども未来局子ども育成部子ども企画課 藤田 211-2982					
<b>全体計画</b>						
事業内容	中・高校生の健全育成のための放課後の居場所づくりの必要性から、中・高校生を対象に、児童会館の開館時間を21時まで延長(中学生の利用は19時まで)し、利用の促進を図る。 平成18年度より実施しており、今後実施館数の拡大を順次図りながら検証を重ね、22年度までには、全児童会館での実施を目指す。  事業費については計画期間中の新規実施に係る事業費のみ計上する(レベルアップ事業)		<b>&lt;年度別の事業内容&gt;</b>			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年度 新規20館(計40館)で週2回実施検証</li> <li>・平成20年度 新規20館(計60館)で週2回実施検証</li> <li>・平成21年度 新規20館(計80館)で週2回実施検証</li> <li>・平成22年度 新規24館(計104館)で週2回実施検証</li> </ul>			
事業内容	<b>平成19年度事業内容(決算)</b>			<b>平成20年度事業内容(決算)</b>		
	<p>【実施館数】平成19年9月に実施館を20か所増やし、計40館(各区4館)で週2回夜間利用を実施した。</p> <p>【利用者数】(1) 延べ: 32,628人&lt;中学生: 12,352人(37.9%)+高校生: 20,276人(62.1%)&gt; (2) 1館1回当たり平均: 10.3人&lt;中学生: 3.9人+高校生6.4人&gt;</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に伴い、学校を通じてチラシを生徒に配布するとともに、地下鉄駅にポスターを掲示。また、広報さっぽろ、ホームページ(携帯版含む)、広報番組等を活用し、広く周知を図った。</p> <p>【活動内容】スポーツ活動(バスケットボール、ダンス等)での利用が多いが、その他調理、読書、部活動の打ち合わせ、職員との会話(相談)、館の行事の手伝いなど様々な活動が行われた。</p> <p>また、環境問題を考える契機とするための「プレガイアナイト」や中・高校生の発案による「(他館との)自主交流事業」等の行事も実施した。</p> <p>【理解促進への取組】新規実施館について、地域や学校の理解を得るために、町内会、民生児童委員、青少年育成委員等の会議や中学校、高校に出向き、事業の説明を行った。</p> <p>【利用促進への取組】(1) 本事業に愛着をもってもらえるよう、中・高校生から本事業の愛称を募集した。(2) 中・高校生の参画による「中・高校生フェスティバル」を実施した。</p>			<p>【実施館数】より多くの中・高校生が、身近な場で気軽に利用できるよう、平成20年5月に実施館を更に20か所増やし、計60館で週2回夜間利用を実施した。(地域性等を考慮し、各区4館～8館で実施)</p> <p>【利用者数】(1) 延べ: 57,394人&lt;中学生: 23,122人(40.3%)+高校生: 34,272人(59.7%)&gt; (2) 1館1回当たり平均: 9.9人&lt;中学生: 4.0人+高校生5.9人&gt;</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に当たり、19年度と同様に、学校を通じてのチラシ配布やポスター掲示、広報さっぽろ、ホームページ(携帯版を含む)等多様な方法で幅広く周知を図った。</p> <p>【活動内容】各種スポーツや読書、職員との会話(相談)などの日常的な活動の他、館行事の手伝いに係わる中・高校生も増えている。</p> <p>また、「中高校生フェスティバル」や小学生対象のお泊り会「みんなで泊ろう!! プチ学校」などの行事の企画・運営に中・高校生のボランティアスタッフが参画した。</p> <p>【理解促進への取組】実施館の拡大に当たり、児童会館の館長を中心に、まちづくりセンターと協議しながら、占用利用団体や学校、町内会、民生委員などの関係機関に対する個別説明を実施した。</p>		
事業内容	<b>平成21年度事業内容(予算)</b>			<b>平成22年度事業内容(予算)</b>		
	<p>【実施館数】平成21年5月に実施館を更に20館増やし、計80館で週2回夜間利用を実施する。</p> <p>【利用者数】本事業の定着化や実施館数の拡大など、中・高校生がより利用しやすい環境づくりが進んでおり、延べ利用数の更なる増加が見込まれる。</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に当たり、引き続きチラシやポスターなどによる周知を図る他、広報番組や中・高校生向けのイベントの開催を通じたPRなどにも取り組んでいく。</p> <p>【活動内容】引き続き地域における中・高校生の居場所として、気軽に利用してもらえるよう、ニーズに応じた多様な活動を行うとともに、異年齢児童や地域住民との交流、利用者の主体性などをさらに促進できるよう取組を充実させていく。</p> <p>【理解促進への取組】本事業の円滑な実施のためには、地域や学校などの関係機関の協力が不可欠であることから、これまでと同様、新規実施館を中心に、関係機関への個別説明を行うなど、理解促進を図る取組を継続する。</p>					
規						
模						
件						
数						
等						

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	1-2-3			事業名	児童会館における中・高校生の利用促進													
<b>達成目標の状況</b>																		
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)												
夜間利用実施館数	20館	40館	60館	80館	104館	104館												
<b>市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)</b>																		
<p>市民との連携、市民参加 夜間利用をきっかけとして、中・高校生が町内のお祭りにボランティアスタッフとして参加するなど、地域住民との交流促進が図られ、まちづくりの推進に寄与した。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 夜間利用の新規実施館について、町内会等の会議や学校において個別に事業説明を行い、理解促進に努めたところ、地域住民や学校の児童会館事業全般に対する関心が深まり、館の行事等への参加や見守りなど協力が増えてきた。</p>																		
<b>評価(成果)</b>				<b>課題</b>														
<p>より多くの中・高校生が、児童会館を利用できるよう、夜間利用実施館の拡大を計画的に進めてきたところ、平成18年度から実施した館(20館)を中心に、利用者数の増加が見られた。このことから、中・高校生の利用促進が図られ、地域における居場所のひとつとして年々定着してきているといえる。</p> <p><b>【利用実績】(利用人数)</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延べ人数</th> <th>1館1回当たり平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>17,735人</td> <td>9.2人</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>32,628人</td> <td>10.3人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>57,394人</td> <td>9.9人</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、児童会館において、利用者からの相談(進路や友人関係など)に応じるケースも見られ、地域における気軽な相談場所としての機能も果たしている。</p> <p>さらに、多くの児童会館では、夜間利用をきっかけとして、中・高校生と児童会館とのつながりが深まったことにより、異年齢交流の一層の促進、ボランティア活動の広がり、地域住民と児童会館の関わりの強化など、中・高校生自身の成長につながるような効果が現れてきている。</p>				年度	延べ人数	1館1回当たり平均	H18	17,735人	9.2人	H19	32,628人	10.3人	H20	57,394人	9.9人	<p>今後も実施館を拡大し、平成22年度での夜間利用の全館実施を目指しており、利用に当たっての地域間格差を解消するために、夜間利用団体との調整が必要であるが、当該団体の活動内容等に配慮しながらも本事業への理解を求めていく必要がある。</p> <p>また、未実施の地域には、本事業に対する住民の理解が低い地域もあることから、本事業の円滑な実施のためには、事業成果のPRや地域との交流促進につながる事業を充実させることで、地域の理解の向上に努めるとともに、実施回数や実施方法等についても柔軟な対応が必要である。</p> <p>利用人数について、全体としては、増加傾向にあるが、館毎の格差が大きい。このため、中・高校生のニーズに応じ、館毎の特色を持たせた活動や行事を企画するなど、より一層の工夫が必要である。</p>		
年度	延べ人数	1館1回当たり平均																
H18	17,735人	9.2人																
H19	32,628人	10.3人																
H20	57,394人	9.9人																
<b>今後の事業の予定・方向</b>																		
<p>平成22年度での夜間利用の全館実施を目指し、実施館を拡大していくとともに、今後においても、児童会館が、「中・高校生の地域における居場所のひとつ」として十分な役割を果たしていけるよう、実施状況や事業内容を検証し、利用しやすい環境整備、地域との連携や中・高校生の主体性に配慮した取組の充実などを図ることが必要である。</p>																		

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		1-2-3		事業名	児童会館における中・高校生の利用促進		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	12,500	37,450	55,650	77,400	183,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の他	0	0	0	0	0	
一般財源	12,500	37,450	55,650	77,400	183,000		
予算	事業費	12,500	34,745	51,490	-	98,735	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0		0	
	市の債	0	0	0		0	
	その他の他	0	0	0		0	
一般財源	12,500	34,745	51,490		98,735		
実績	事業費	11,629	33,300	-	-	44,929	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0			0	
	市の債	0	0			0	
	その他の他	0	0			0	
一般財源	11,629	33,300			44,929		
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)				52.7%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							
[21年度]							